

# 東京メトロ千代田線・JR常磐線・小田急線 ダイヤ改正案

## 東京メトロ千代田線関係

### 1 千代田線の列車本数を増加。

昼間時間帯および通勤時間帯の千代田線の電車を10本から12本に増加。

### 2 小田急線・JR常磐線直通列車を増加。

昼間時間帯および通勤時間帯のJR常磐線直通電車と、小田急線直通電車を増加。

昼間時間帯において、小田急線直通は綾瀬発着がメインとし、JR常磐線直通は代々木上原発着がメイン。

## JR常磐線関係

### 1 昼間時間帯の常磐緩行線の列車本数を増加。

昼間時間帯および通勤時間帯のJR常磐線緩行電車を5本から6本に増加。

### 2 昼間時間帯に取手行きを設定。

一部の電車の行き先を我孫子行きから取手行きに拡大（我孫子～取手間）させ、我孫子駅での乗換えの手間を省かせます。

## 小田急線関係

### 1 小田原線「本厚木」発着の千代田線直通列車を増設。

小田急線側の相互直通運転区間を拡大（新百合ヶ丘～本厚木間）し、現在の多摩線「唐木田」発着のほか、小田原線「本厚木」発着を増設。

### 2 片瀬江ノ島・小田原方面への所要時間を短縮。

日中においての急行を、唐木田・本厚木行きの千代田線直通列車を中心とし、乗り換え駅では接続列車を設定し、都心方面から片瀬江ノ島・小田原方面への利便性を図ると共に運転ダイヤを見直すことにより、新宿～片瀬江ノ島・小田原方面への所要時間を6～10分程度の短縮を図る。

### 3 列車種別・停車駅の変更。

千代田線直通列車を「急行」「多摩急行」「準急」とし、この列車を主体とする運転ダイヤに変更。

「多摩急行」は向ヶ丘遊園に停車させ、乗車拡大のチャンスを図ります。

# 千代田線・JR常磐線ダイヤ改正の概要

## 1 昼間時間帯の千代田線の列車本数を増加。

昼間時間帯

	< 現行 >	< 改正後 >
上り・下り	1時間 10本 (6分間隔)	1時間 12本 (5分間隔)

## 2 昼間時間帯の常磐緩行線の列車本数を増加。

昼間時間帯

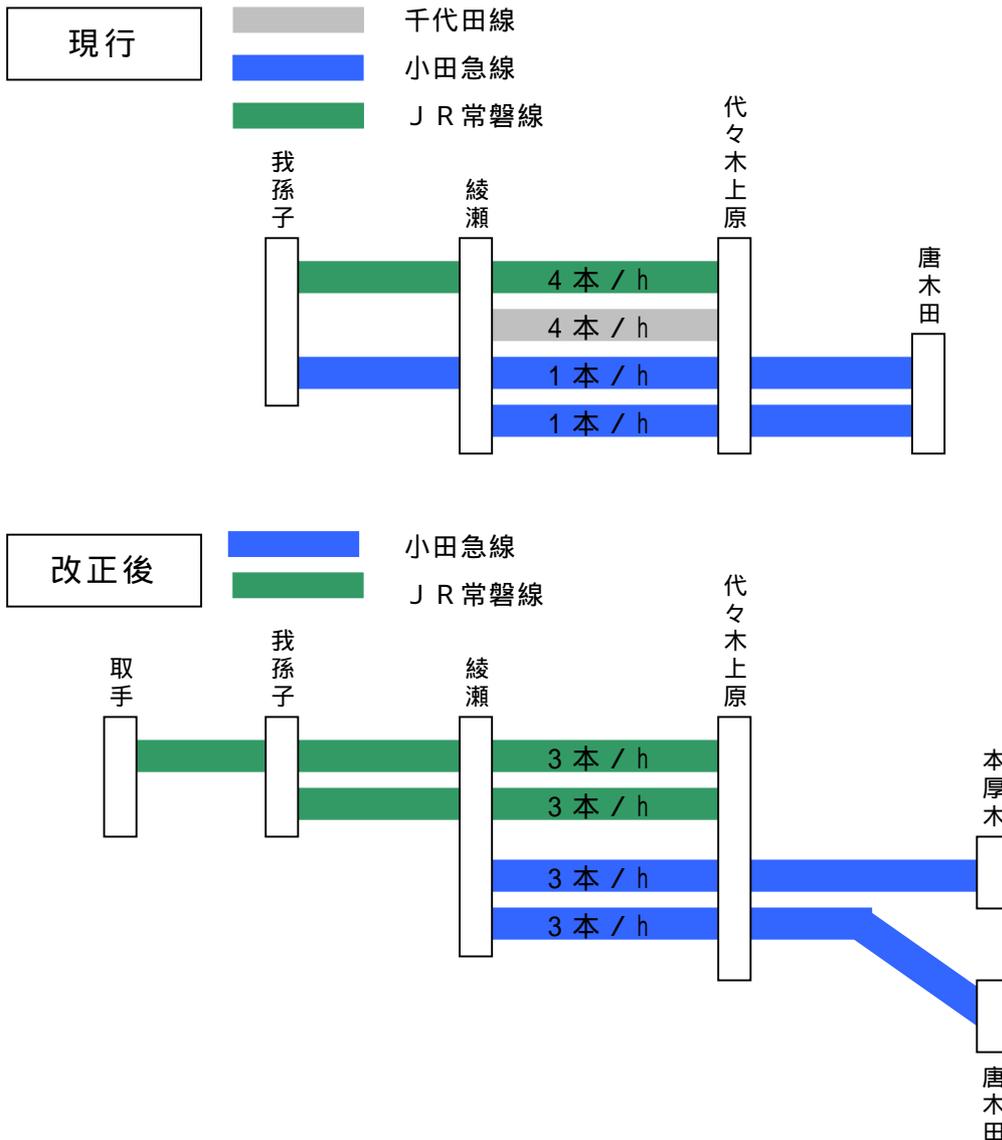
	< 現行 >	< 改正後 >
上り・下り	1時間 5本 (12分間隔)	1時間 6本 (10分間隔)

## 3 小田急線・JR常磐線直通列車を増加。

昼間時間帯

	< 現行 >	< 改正後 >
小田急線直通	1時間 2本 (30分間隔)	1時間 6本 (10分間隔)
JR常磐線直通	1時間 5本 (12分間隔)	1時間 6本 (10分間隔)

昼間時間帯において、小田急線直通は綾瀬発着がメイン。  
 昼間時間帯において、JR常磐線直通は代々木上原発着がメイン。



# 小田急線ダイヤ改正の概要

1 実施路線 小田急小田原線・多摩線・江ノ島線

## 2 改正内容

### (1) 東京メトロ千代田線との相互直通運転関係

「本厚木」発着列車の増設

現在の東京メトロ千代田線の直通区間を代々木上原～唐木田でメインに運行していたのを、新たに代々木上原～本厚木の列車を新設。

直通列車の大幅増発

直通列車の運転本数を大幅に増発するとともに、昼間時急行は直通列車を中心とした運転ダイヤに変更。これにより、昼間時において30分間隔の運転が10分間隔に、夕ラッシュ時間帯20分間隔が10分間隔に短縮し利便性の向上を図る。これにより、直通列車は10分間隔を基本とした運転ダイヤに変更（早朝・深夜時間帯を除く）。

・平日（現行）上下70本 （改正後）上下190本 120本増

・土休日（現行）上下53本 （改正後）上下165本 112本増

（あくまで想定）

### (2) 列車種別の変更

今回のダイヤ改正では、千代田線直通列車の増発とともに、直通列車を中心とする運転ダイヤにすることにあわせて、列車種別が変更。

	現 行	改正後
千代田線直通列車	準 急	準 急（朝夕ラッシュ時）
	急 行（朝上りのみ）	急 行
	多摩急行	多摩急行
新宿発着列車	各 停	各 停
	区間準急	区間準急
	準 急	通勤準急（新種別）
	急行（新松田～小田原間各駅停車）	区間急行（新種別）
	急 行	通勤急行（新種別）
	快速急行	快速急行
	特 急	特 急

### (3) 千代田線直通の「多摩急行」を向ヶ丘遊園に停車。

現行の「多摩急行」を向ヶ丘遊園に停車させ、乗車のチャンスを拡大。

### (4) 朝夕ラッシュ時の輸送関係

朝・夕ラッシュ時は千代田線から「準急」が大幅に直通します。

## (5) 昼間時(10時～16時台)の輸送関係

昼間時の「快速急行」を増加します。

現行の「快速急行」藤沢行きを1時間あたり2本から3本に増加。

それによって、平日昼間の「快速急行」小田原行きはなくなります。

「快速急行」藤沢行きは、相模大野において同一ホームで相模大野発「急行」箱根湯本行きに接続します。

千代田線直通列車を1時間あたり6本運転に増発

千代田線直通列車について、現在、「多摩急行」が1時間あたり2本(30分間隔)のところを、改正後には「急行」「多摩急行」による6本(10分間隔)の運転に増発します。

千代田線直通列車主体の運転ダイヤ

昼間時においては、千代田線直通の列車を「急行」「多摩急行」をメインに6本運転することに伴い、現在、新宿で発着している列車を「区間準急」「快速急行」メインになります。

代々木上原において、「区間準急」と「多摩急行」「急行」と「快速急行」、

新百合ヶ丘において、「多摩急行」と「快速急行」「区間準急」と「急行」に乗り換えが可能です。

新宿～唐木田、片瀬江ノ島、小田原間の所要時間の短縮

千代田線直通列車主体の運転ダイヤおよび相模大野・本厚木～小田原・箱根湯本間の分割運転化に伴い、朝・タラッシュ時を除き新宿～小田原・箱根湯本間の直通列車がなくなり、乗り換え駅となる「新百合ヶ丘」「相模大野」「本厚木」の各駅では、接続列車を設定。また、運転ダイヤの見直しを図り、同区間において、3～10分程度の所要時間の短縮を実施。なお、接続列車は同一ホームで乗り換え可能。

新宿からの所要時間(最速列車)の比較 (あくまで想定)

	現行	改正後
唐木田	42	39
片瀬江ノ島	63	60
小田原	92	83
箱根湯本	109	100

## ( 6 ) 列車の増加

多摩線において「多摩急行」が2本から3本に増加。

江ノ島線において昼間時の「快速急行」が2本から3本に増加。これに伴い昼間時の「急行」がなくなります。

## ( 7 ) 種別の変更

小田原線において新松田～小田原間各駅停車の「急行」が「区間急行」に種別変更します。

朝夕ラッシュ時の新宿発の経堂通過の「急行」は「通勤急行」に、「準急」は「通勤準急」に種別変更します。

昼間時 1 時間あたりの運転本数の比較 ( ) 内は発着駅と運転本数

	現行	改正後
千代田線直通列車	多摩急行 2 本 唐木田行 2 本	急行 3 本 本厚木行 3 本 多摩急行 3 本 唐木田行 3 本
新宿駅発着列車	区間準急 2 本 唐木田行 2 本	区間準急 6 本 唐木田行 3 本
	急行 4 本 小田原行 2 本 箱根湯本行 2 本	快速急行 3 本 藤沢行 3 本
	快速急行 3 本 小田原行 1 本 藤沢行 2 本 ( 平日のみ運行 )	
	10 本	15 本

改正後の急行列車の発着駅となる本厚木駅で、接続の各駅停車に乗り換え可能。  
改正後の区間準急は代々木上原駅で接続の多摩急行に乗り換え可能。

